

学校法人 佐賀ルーテル園
唐津ルーテルこども園

1. 本園の教育目標

(1) 教育方針

キリスト教精神を土台にした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている。

- ① 生涯の土台となる心を育てる。
- ② 一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育を目指す
- ③ 豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
- ④ 友だちとともに生活することに喜びを持つ心を育てる。
- ⑤ いろいろな実際体験を多く保育に取り入れ、体験や遊びを通して心身が健全に育つよう
- ⑥ 健康なからだ作りを目指す。(薄着奨励)
- ⑦ 家庭と園の連携を大切にし、保護者と教諭等が協力し、子どもの成長に手を添えていく。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

| |
|--|
| <p>【人間関係】 園児一人一人が認められ自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるような関り方や活動、環境について考える。 ○いろいろな人や事柄に出会いながら自分や友達のよさや特徴に気づく。 ○保育教諭等にありのままの姿を認められ安心してチャレンジできる環境を整える。</p> <p>【健康】 健康な心と体を育てるために必要なことは何かを考える。 ○和やかに食事をする中で、食具の使い方、咀嚼、姿勢などの食習慣の形成を促すための環境を整える。(保育者がモデルを見せる)</p> <p>【表現】 感じたことや考えたことを様々な方法(音楽、言葉、絵画、制作など)で表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにする。 ○本物に触れる、自然の中にでかけるなど五感を働かせた経験の機会を作る。</p> |
|--|

| 重点 | 取り組み状況と今後の課題 |
|------|---|
| 人間関係 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人の存在に気づいたり、出会ったりする中で、保育者、大人の言動や関りが子どもたちのモデルになっていることを改めて感じた。 ・一人ひとりの発達に合わせたかかわり方を心掛けてきたことで、自然に子ども同士で手を添えたり、助けあう様子が見られた。 ・できるようになることではなく、チャレンジしようとする過程を大事にし、今後も保育者も人的環境としてモデルとなり、子どもたちのありのままの姿を見守り、手を添えたい。 |
| 健康 | <p>コロナが5類になり衛生面に配慮しつつ、友だちと共に楽しんで食事をとる環境を考えてきた。その中で、一人ひとりの発達を見ながら、食べ方(咀嚼等)、スプーンから箸への移行時期や椅子の高さ、テーブルの配置など家庭とも連携をとり進めてきたが、園だけでは難しい面もあり、0歳からの育ちを改めて職員が把握することや、家庭との連携が必要だと感じた。今後も意識して続けていきたい。</p> |
| 表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・以上見、特に年長児は意識して園外に出かけ、様々な場所や事柄に出会う経験ができた。未満児においても、季節ごとの変化を感じることができるよう工夫をし、与えられた自然の恵みを遊びながら感じるようにしていた。 ・自然物を使った表現、リズムに合わせた表現、描画、ストーリープレイなど一つの方法にとらわれることなく今後も感じたこと、体験したことを表現できるような環境を整えていきたい。今後も心が豊かになるような体験、本物に触れる、出会う環境を考えていきたい。 |

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目 取り組み状況

| | 評価項目 | 評価と取り組み状況 |
|---|---------------------------|---|
| 1 | 子供理解 指導の 計画等 | <p>○一人ひとりに合わせた保育内容や個別の対応においても合理的配慮を心掛け、職員間の話し合いや情報共有をしているが、個別の指導計画となると対応園児が年々増加していることもあり難しさを感じる。よりよい方法を確立していきたい。子育て支援職員、補助職員なども含め、チームとして共通意識がもてるよう発信、伝達を今後も心掛ける。</p> <p>○無理のない記入方法を工夫し、その中で実施した事の記録及び、今後に繋げる気付きや改善点の記録等がされていた。細やかなスケジュールの作成は、初年度は大変だったと思うが、今後役に立つ物になったと感じる。</p> <p>○保育計画等は、気候や季節に合った遊びや製作を考えていると思う。</p> <p>○環境については、職員の意識が高まっており、現場からの気付きや声がよく上がってきたので、すぐに改善の対応をするように気をつけた。今後も子どもの安全の為に破損している物を取り除く、補修することに迅速に対応できるようにしたい。2歳児の椅子については、経年劣化もあり次年度から新しい形のものを取り入れるようにした。</p> <p>○定期的に避難訓練が行われており、緊急の時の動きがイメージしやすい。また、子どもたちの遊びの中でも訓練するので、安全に対する心構えは少しずつ育っている気がする。今後は避難訓練の日程を子育て支援開催日に合わせて子育て支援職員と共同で避難訓練を行うなど、園全体でイメージできるようにしていきたい。</p> |
| 2 | 衛生管理 | <p>○定期的に専門業者による清掃を行っているが、エアコンや扇風機、ピアノの下や裏側、サッシの上部、掃除用具の点検など見えにくい場所への意識を持っていきたい。</p> <p>○コロナが五類になってからも、さまざまな病気の声は聞かれたが、広く感染することはなく子どもたちの健康が保たれたと思う。</p> <p>○衛生面では清掃を丁寧に行い、マメに消毒をしている。バランス良く食べる、寝ること、遊ぶことが健康的な身体づくりに繋がることを伝えたり意識したりしながら保育している。</p> <p>○冬場の衣服の調節など一人ひとりに合わせた対応ができた。</p> <p>○食物アレルギー配慮は食べる事だけでなくアレルギー物質に触れさせないことを再度意識したい。</p> |
| 3 | 家庭及び 地域連携 子育て 支援 | <p>○子育て支援に参加されたお子様が『楽しかった!』と笑顔だったとき、お母様方が楽しそうに子育てについて語られている姿を見たとき、『良い時間』を過ごされていると感じる。</p> <p>○子育て支援の中でも療育施設に通う子どもの参加が増えている。共通に取りくめる事が何かを模索している。研修等にも参加し、繋げていきたい。</p> <p>○送迎の際に保護者の方に様子をお伝えするのが難しい方には時間を作ってもらい、話す機会を設けた。</p> <p>○連絡ノートでやりとりはできていたが、保護者と直接話をするのが難しいことがあった。</p> <p>○保護者や療育機関との関係がとても良好な一年だったと感じる。子どもの発達について、などは個別にじっくりと話す機会を設け、現状の共有や次の動きについて考えることができた。</p> |
| 4 | 子どもの 人権、 安全と 健康 | <p>○子どもの人権に基づき、一人ひとりの子どもが大切にされていると感じる。</p> <p>○一部、保育者の言動がどうか、という声が聞かれ、考える時を持つ方ができた。</p> <p>他園勤務経験者への、当園での感覚や考え方、思いを伝えるいい機会になった。一つ一つを丁寧に、伝えていくことの大切さを実感した。</p> <p>○食事については、先生方が個人の食べ方や癖をしっかり把握して見守っている。</p> |
| 5 | 教職員の 資質向 上・研修 | <p>○こまめに話し合い共通理解を持って子どもに関わることができた。</p> <p>○どの立場の職員も、それぞれの役割を精一杯こなしていた。協力して保育ができた。保育支援者の方に補助に入っていただくことで日々の保育が成り立っている現状があるので、より保育が深まるような研修や、定期的な振り返り(スーパービジョンのような形で)の機会を持ちたい。</p> <p>○職員全体にチームとしての意識が強いと思う。挨拶や感謝の言葉をお互いに伝えあっていて、気持ち良く働けている。</p> <p>○子育て支援の中で療育施設に通う子どもの参加が増え、現在研修を受けている。今後も研修に参加していきたい。また、今年度はいろんな学年に入り、年齢による遊びや生活の違いを知り、臨機応変な対応を意識する機会となった。次年度に生かしていきたい。</p> <p>○給食室として、配膳の時に子どもたちが、どんな雰囲気でのくらい食べているか等を子どもと関わりながら見る事ができた。保育者とも意見を共有し、食育の面で、子供たちと何か作ったり、触れたり、食に対して意欲がもてるようにしたい。アレルギーの子も安心して食べられるような献立を増やしたい。</p> |

4. 総合的な評価結果と今後の課題

○創立 70 周年感謝事業を通して、園内外のつながりや歴史を改めて感じた一年だった。たくさんの方々の祈りや思いに支えられ、現在の子どもたちの保育環境が整えられてきている。原点に立ち返り、本園が創設された思いや理念に触れ、変えていくもの、変わらずに大切に繋いでいく思い、保育など振り返る時となった。これからも続く未来へ日々の保育で大切にしていることをつないでいくことができるようにしたい。

○招かれた子どもたち、職員、一人ひとりが大切にされる園でありたいと思う。個別の対応含め、保育、生活の中での合理的配慮をこころがけ、保護者との連携、対話、職員間の情報共有、保護者対応など意識して行おうとしている。心掛けてはいるが、もっと保護者と関わりたいと思う職員の思いがあった。時間の作り方や相談しやすい環境を整えていきたい。

○保育支援者、保育補助職員のサポートがあり、保育を行うことができた。長時間保育児が多い中で保育者への支援があることに感謝。また、個別のサポートを要する児への対応も含め、園内で情報を共有し、保育者だけでなく、園全体で共通のかかわりができるようにこころがけてきた。全体周知の難しさもあるが、今後も園全体で子どもたちに接していくことを意識していきたい。